

郷土摂津 いにしえ通信

第89号



平成17年9月1日

発行

摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課

〒566-8555 摂津市三島一丁目1-1

TEL(06)6383-1111 (072)638-0007

ホームページアドレス

<http://www.city.settsu.osaka.jp/>



ふるさとの川「淀川」

～川は流れる悠久の歴史の中で～

人類が出現する以前の原始・古代・
中近世から現代まで時代別に淀川
と摂津市の関わりに迫ります。

第6回

人間と川との闘い 茨田(まった)堤 淀川は水量豊富な琵琶湖を水源としていますので流量は大変多い川です。さらに淀川水系は、近畿地方の面積の四分の一強の大河であるため、「近畿の母なる川」といわれています。しかし流域に大雨があれば、たちまち下流に洪水をもたらすという猛威を秘めた川でした。

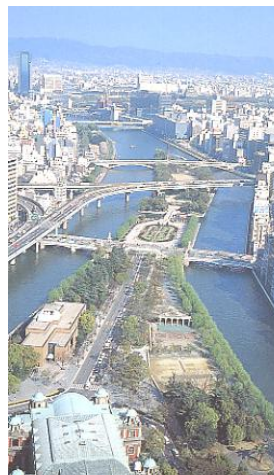
古代からの記録に残された淀川の洪水についてみると、推古天皇 31 年 (623 年) から現在まで、約 1,350 年の間に、大小あわせて 200 以上が数えられます。平均して 6 年に 1 回は沿岸のどこかで洪水が起きていたこととなります。それほどこの川は荒々しい性格の持ち主ですので、沿岸流域の人たちは水との闘いに明け暮れてきました。その治水工事第 1 号が『日本書紀』に載っている仁徳天皇 11 年の条「茨田堤」築堤工事の説話です。

古来洋の東西を問わず、水を制するものは、国を制するといわれます。5 世紀ごろ世界最大の墳墓、仁徳天皇陵を作った倭の五王の一人仁徳天皇は、大土木事業家であり、その治世中、精力的に土木事業に取り組んで治水を計りました。

仁徳天皇は当時、北の河と呼ばれていた淀川を、河内高津宮から望観して言いました。「この国は見る限り大変広大である。しかし農耕しているところは妙に狭い。というのも、川が北と南の両方から流れこんで、しかもその下流は流れが緩慢なため、大雨が降るときまって洪水になるからである。しかも海の潮の高いときには、潮が逆流して漁船が村の中に浮かぶ有様だ。こうした水害さえ除けば、住民たちは安心して農作に身がはいるであろうし、収穫もおおいに増えるであろう」と。

当時の大阪平野には北部には北の河 (淀川) が、南部には南水 (大和川) が流れていました。当時はすでに川から水をひいて、水稻農作が本格的におこなわれていました。仁徳天皇はこの低湿地を水田に変え、生産の増強を図ろうとしました。『古事記』によると「宮北の郊原を掘りて、南の水を引きて、もって西の海に入る。よりにその水を名づけて堀江という」と記されています。つまり、まず大和川の流れを、堀を作って海に流すことから始めたわけです。低地に溜まる水の流れをよくして、田地を広げようとしたのでした。この堀江が難波堀江で、現在の大阪城の北を流れる大川 (旧淀川の流路) であるといわれています。

茨田堤の工事には、河内を居住地としていた秦氏の人々が動員されました。彼等は朝鮮半島の百濟から移住してきた人々でした。現在、寝屋川市に秦とか、太秦という地区があり、弥生中期から後期の遺跡や古墳が密集していて彼等の居住していた場所と思われます。秦氏は中国の黄河治水の苦闘を通じて進歩した大陸の技術を伝えもっていたらしく、仁徳天皇は渡来した新しい文化を持つこうした人々の設計監督を活用して、この茨田堤を完成しました。仁徳天皇はこの工事の 2 年後には、ヤマトの国に和珥池をつくって灌漑施設を整備し、さらに南水の水害防止のため、横野堤 (大阪市生野区あたり) を築堤し、また猪甘津 (大阪市東成区) に、大和川から分流した水路に橋を架けて、難波と河内や大和との交通路の確保をも図りました。(裏面へつづく)



←大川の流れる中之島附近は難波堀江が掘られたところと考えられています

↓門真市堤根神社にある茨田堤石碑



仁徳天皇の淀川への挑戦は、ようやく国土の保全を確保しましたが、数年毎に繰り返す淀川の洪水は、堤の浸蝕をゆっくりと始めていきました。仁徳天皇が築いた茨田堤は延暦3年（784年）の洪水で破壊30ヵ所に及び、完膚なきまでに損壊してしまいました。応神・仁徳の大きな墳墓を築く土木技術者が丹精した茨田堤も300年もたつと、崩壊せざるをえなかったのです。しかし政府側も手をこまねいて傍観していたわけではありませんでした。天平宝字6年（762年）には人夫2万2千余人を使って修復に従事させています。また宝亀元年（770年）には3万余人が修復の労役に働いています。しかし、堤はもたず、結局人間の力は自然の威力の前では微々たりものだという結果になってしまいます。

夏休み体験学習講座 縄文た・ん・け・ん隊

終了報告

平成17年8月11日（木）千里丘公民館で夏休み体験学習講座「縄文探検隊」が開催されました。当日は古代体験学習サポートグループ「ハンズ・オン！」のメンバーも参加していただき和気あいあいとした雰囲気でのびのびと始まりました。まずは縄文時代ってどんな時代？ちょっとお勉強を。そして土器づくり開始！粘土をよくこねて紐状にして形づくっていきます。最後に縄や貝殻などを使っていろいろな文様をつけます。

平成17年8月22日（月）鶴野第2公園キャンプ場で土器を焼きました。前日の天気予報では、雨の気配が…。しかし当日は晴天となり絶好の土器焼き日和となりました。浅い穴を掘り土器を並べまわりからじっくり焼いていきます。すると土器が真っ黒に変色してきます。こうなればほぼ割れてしまう事はありません。最後は薪で覆い一気に焼き上げます。この時温度は800度近くになります。今回の土器焼きは全て成功！



上手く焼けたかな



土器が黒くなります



薪で覆い一気に焼き上げます



土器を焼いている間に環境センター見学者室で縄文ポシェットを作りました。青森県三内丸山遺跡で発見されたこのポシェットはイグサ科の植物で編まれていて中にクルミが入っていました。今回の講座ではクラフト布を使って作りました。また覆い焼き見学の後、手提げ紐もキャンプ場のベンチで作りました。縄文時代の高度な技術に触れる1日でした。



↑三内丸山遺跡出土ポシェット



ふるさと摂津講座 9月開催

摂津市とゆかりのあるテーマを選択し、古代からちょっと昔まで、摂津市の歴史を楽しく学習する講座です。講師はいずれもふるさと摂津案内人が努めます。

受講に際しては、申込みは必要ありません。
直接会場へご来場ください。

日時 平成17年9月21日（水）午後2時～4時
会場 摂津市総合福祉会館第1会議室
内容 ①貴族も遊んだ鳥養院 講師：林健三氏
②江州音頭と権六踊り 講師：稲盛正恵氏
定員 60名 川西幸代氏